

平成 22 年 2 月 25 日

専門委員会の運営について

現在、本委員会では、プロジェクト計画表に従い、コンバージェンスの継続、加速化を図っているところであるが、2011 年 6 月を期限とした IASB と FASB のコンバージェンス作業も最終局面を迎え、今後、さらに本委員会における IASB に対する意見発信力を強化する必要があると考えられる。

これらの状況下、委員会審議の活性化、効率化の一環として、昨年 10 月より以下の取り組みを開始しているところである。

- 委員会におけるディスカッション・ポイントの明示
- 委員会における暫定合意のための意思確認の導入
- エデュケーション・セッションの導入

本委員会では、専門的な意見を聴取し委員会審議に役立てる目的で、常設委員会である国際対応委員会、実務対応専門委員会を設け、また、各種テーマごとに専門委員会を設置している。現状、当初専門委員会を設けた段階と環境の大きな変化があること及び上記のような取り組みを行っていることから、現在設けられている専門委員会での状況を踏まえ、以下の方策を図り、委員会全体の審議の活性化、効率化を図りたい。

なお、他の専門委員会のメンバー構成等についても、引き続き検討することとしたい。

専門委員会名	対応案	備考
国際対応	休止する。	現状では、専門委員会発足時（委員会設立時）と異なりテーマごとに専門委員会が設けられており、IASB で検討される内容の主要な論点は、各専門委員会で対応が可能である。国際対応委員会は休止し、今後、各専門委員会で対応できないものは、委員会で対応する。
実務対応	同上。	現状では、専門委員会発足時（委員会設立時）と異なりテーマごとに専門委員会が設けられており、実務対応を要するものは、各専門委員会で対応が可能である。実務対応委員会は休止し、今後、各専門委員会で対応できないものは、委員会で対応する。
無形資産	同上。	審議の一元化、効率化を図るために、専門委員会は休止し、委員会で対応する。なお、現在の専門委員から

審議事項（6）

		は、適宜、専門的見地からの意見を聴取する。
引当金	同上	無形資産と同様。
四半期	解散する。	現在、行っている作業終了後、解散する。
過年度遡及	同上。	同上。
一株当たり利益 (EPS)	同上。	同上。

以 上